

## 第8回自死遺族サポーター研修会

悲嘆感情を語り難い

# 自死遺族たちをどう支え、寄り添うか

大切な人に突如、自ら命を絶たれ嘆き、苦しみ、悲しみに暮れる遺族たち。その悲嘆感情を遺族たちは、世間の「自死」に対する偏見、差別等により語り難く、孤立しがちとなります。そのような自死遺族たちをどのように支え、寄り添っていくことが望まれるでしょうか。本研修会では、自死遺族に身近に接する際の心得などについて、経験豊富な精神科医のコメントや自死遺族当事者、支援者等からの体験的な提案を学びあいます。

### 【開催要項】

- 日 時 2017年9月29日(金) 13時～17時
- 会 場 東京・四谷主婦会館「プラザエフ」 (別途地図をご参照ください)
- 参加対象者
  - ・自死遺族の身近な方々(家族や親族、友人、知人、同僚など)
  - ・相談者(医療、行政、警察、教育、福祉、保健、心理、遺族分かち合いの会、電話相談等の関係者)
  - ・宗教者や葬儀関係者
  - ・その他、自死遺族に接する機会のある方々など
- 定 員 50名
- 参加費 1,000円
- 申込み 2017年9月15日ころまで (定員になり次第締め切ります)
- 申込み先 郵送、ファックス、メールにて、以下にお申し込みください。

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-2-6-103

「自死遺族ケア団体全国ネット」 Fax:03-5775-3871

メール: [info@jishicare.org](mailto:info@jishicare.org)

主 催 自死遺族ケア団体全国ネット

後 援 厚生労働省 東京都  
一般社団法人日本いのちの電話連盟  
NPO 法人グリーンケア・サポートプラザ  
NPO 法人生と死を考える会

## 第8回 サポーター研修会 カリキュラム

**【開会挨拶】** 13：00～13：10

**【基調提言】** 13：10～14：10

○望まれる自死遺族支援のあり方をめぐって

講師：筑波大学医学部教授 精神科医

**高橋 祥友氏**

※大切な人の自死を防げなかった、助けられなかったという罪責感、そして自死に対する偏見や無理解により死別の苦しみ、悲しみを語り難い遺族たち。そのような自死遺族たちに寄り添う際に心得ておく大事な課題とは、何か。自殺対策の第1人者として現場や学究に長く関わってきた精神科医の立場から、その課題についてコメントしていただきます。

(休憩) 14：10～14：20

**【パネルディスカッション】** 14：20～16：30

○自死遺族に寄り添う「サポーター」の心得

※自死遺族支援の現場に関わって居る3人のパネラーの方々より、支援活動の現場から学びとってきたさまざまな課題等についての提案とディスカッションをしていただきます。

なお、3人のパネラーの方々には、下記のプロフィールにありますような立場から、それぞれ問題提起をしていただきます。

※パネラーの提言の後、時間があれば会場との質疑応答の時間を持つ予定です。

## 【パネリストの紹介】

○岐阜県「千の風の会」 代表 木下 宏明氏

○グリーンケア・サポートプラザ 松岡 玲子氏

○栃木いのちの電話わかちあいの会「こもれび」スタッフ  
大橋 房子氏

### ○木下宏明氏プロフィール

16年ほど前に妻を焼身自殺で喪う。その5年後に1人息子が失踪後、自死。その後、岐阜県及び精神保健福祉センターと共に「遺族の集い」発足に取り組み、2009年1月にスタート。現在、「千の風の会」代表、また岐阜県総合自殺対策協議会委員として自死遺族の想いを行政に反映する活動を実施中。

### ○松岡玲子氏プロフィール

5年前に夫と自死で死別。当初は気を張っていたが、体に変調を来たし、その後、心情を素直に語ることの重要性を痛感。現在は自死遺族「分かち合いの会」のスタッフとして活動している。一方、「死者にとって生者とはどのような存在か」と問いかけることで、自死者と遺された者との関係性について哲学的な見地からの思索を続けている。

### ○大橋房子氏プロフィール

全国のいのちの電話グループのなかの5グループと共に、栃木県内にて自死遺族支援活動を開始。

現在、栃木いのちの電話 自死遺族わかちあいの会「こもれび」の中心的スタッフとして活躍中。

## 【コーディネーター】

○自死遺族ケア団体全国ネット代表  
藤井 忠幸氏

※パネルディスカッションの途中に適宜小休憩をとる予定です。

**【自死遺族サポーターに求められるもの】**

16：30～17：00

講師：自死遺族ケア団体全国ネット代表 藤井 忠幸氏

※これまでの基調提言や3人のパネラーの方々からの声も含めて、自死遺族に寄り添うサポーターには、どのような役割が求められるか。  
そして身近な自死遺族たちにどのような態度で接し、支え合えばよいか等についての心得を整理し、提言します。

※ なお、テーマや講師、時間等は都合により変更することもあります。